

# 証検導誘難避の時の闇暗

## 住吉小(吉田)で公開実験

### 土木学会地震工学委

土木学会地震工学委員会は8日夜、津波災害による暗闇時の高台避難誘導に関する公開実験を吉田町の町立住吉小で実施した。東日本大震災後に設置した屋上への避難階段や手すりに蓄光式の避難誘導板を貼り付け、夜間での効果や問題点などについて検証した。

実験には地域住民や町職員ら約50人が参加。蓄光式の避難誘導板を取り付けた場合とない場合など3パターンの訓練を繰り返し、移動時間やアンケート

調査による参加者の「思うところ」と感想を話した。参加者は「思った以上に明るくて見やすかった」「暗闇でもこの誘導板があれば、心配せずには逃げられる」と振

建設教育研究推進機構理事長の大野春雄委員長は「蓄光式の避難誘導板を設置した場合は参加者の避難行動がスムーズだった」と振



蓄光式の避難誘導板を貼り付けた避難階段を利用する参加者—吉田町立住吉小

り返った。その上で、「電力が機能しなかった場合のソフト面での『逃げる』対策や、高齢者や避難行動弱者の行動について考慮しながら、多角的に検証したい」と述べた。

今回の実験は同町が独自に津波ハザードマップを作成するなど、津波対策への先進的な取り組みを受けて、同町を皮切りにスタートさせた。今後は全国各地で実験を展開し、国に対して避難対策などを提案する方針。